

イスラ ムは他の宗教とどう なるか？ (パ ト2/2)

5.0

明:他の信仰系 や人生の には 出せない、イスラ ム独特のいくつかの特 について。パ ト2。

目:[事イスラ ムの信条イスラ ムとは?](#)

より: フルシ ド アフマド

日 9 Nov 2010

集日 30 Nov 2010

人と社会 のバランス

イスラ ムにおける他のユニ クな特 の一つとして、人主 と集 主 の におけるバランスの 立
があります。イスラ ムは人の 性を尊重し、全人が 人的に神に して 任を うのだとしてい
ます。言者ムハンマド（彼に神の祝福と平安あれ）は、こう言いました：

?

??
??

??
??

またイスラ ムは 人の基本的人 を保障し、いかなる者にもその侵害を めません。そして
人 の 性の 切な 展を、教育政策の主たる目的の一つとしているのです。イスラ ムは、人
が社会や国家において 性を 失しななければならない、などという 点には同意しないので
す。

イスラ ムにおいては肌の色や言 、人 や国籍に なく、全人は平等です。そしてヒュ マニ
ティの意 に取り み、人 や社会的地位、富などの全ての った障壁を除去します。そのよ

うな障壁が常に存在してきたこと、そして今日のいわゆる 明の 代においても存在し けているということは、否定出来ない事 です。イスラ ムはこれら全ての障害を取り除き、ヒュ マニティ全体の理想が神による一つの家族であることを高らかに うのです。

イスラ ムはその展望とアプロ チにおいて国 的であり、 言者ムハンマド到来以前の状 のように、肌の色や血 、地域などによる障壁や区 を めていません。不 なことに、これらの偏 はこの 代においても 々な形で横行しています。イスラ ムは全人 を、一つの旗の下 に させることを望みます。イスラ ムは、国家的反目と不和で疲弊した世界に、人生と希望、そして 光に溢れた未来のメッセ ジを提供するのです。

史家のA.J.トインビ はこの点において、いくつかの 味深い をしています。その著「Civili zation on

Trial (につけられた文明)」の中で、彼はこう しています：「こういったプロレタリ ア国 主 (西洋化人)における二 の 立つ危 性とは精神的、そして物理的なものであり、なかでも我々の近代西洋社会において 立つ要素は民族意 、そしてアルコ ルなのである 。そしてもし容 されるのであれば、これらの 要素との において、イスラ ム的精神はど ちらがより高度な 理的 社会的 を持つかを 明する役割を有しているのだ。」

ムスリムの の人 意 の は、イスラ ムによる 著な 理的 の一つです。そして 代世界には、に 生しているように、このイスラ ム的美 を宣 する切迫した必要があるのです…イスラ ムの精神は

容さと平和によってこの を 定するであろう、 宜に った援 であると考えられます。

アルコ ルの害 はと言えば、それは西洋企 によって「拓」された 地域における原始的集 の において最 のものです。外的 威から いられた最も政治的じみた予防策でさえ、解放 への欲望と、その欲望を自 的行 へと移す意思が人々の心の中に 醒されない限り、コミ ュニティを社会的 から解放出来ないというのが わらない事 なのです。 にも角にも「アングロサクソン」に由来する欧米の行政官たちは今、人 意 が している身体的「差 障壁」によって、彼らの先住地区から精神的に孤立してしまっています。先住民の魂を改 宗させたところで、彼らの能力 などはほとんど期待できません。そしてイスラ ムが何

らかの役割を果たすことが出来るかもしれないのは、この点においてなのです。

最近の急激な 地域の の中で、西欧文明は 的 政治的充溢と同 に、社会的 精神的空虚をも得しました。

ここで私たちは近い将来において、イスラ ムが西欧社会のプロレタリア国 主 に及ぼすことが出来るかもしれない2つの 重な影 を めることが出来ます。西欧社会はその情 を世界中に 信し、全人 を包含しています。そして い将来において私たちは、いくつかの新しい宗教的兆候におけるイスラ ムの 献の可能性を予想出来るかもしれません。」

恒久性と 容

恒久性と 容という要素は、人 社会と文化の中に共存し、そしてそのように留まること が定められています。 々なイデオロギ と文化システムが、この均衡の一片のみに 度に 依 したために、 を犯してきました。恒久性に する 度の はシステムを硬直させ、そこから柔 性と を いましたし、恒久的 と普遍の 要素の欠如は道 的相 主 や 形性、アナ キズムを もたらしました。

しかし必要とされているのは、これら2つのバランスです。つまり、恒久性と 容のいずれの要求にも じることの出来るシステムなのです。アメリカの裁判官ジャスティス カルドソは、このような的を得た 言をしています：「私たちの 代における最大のニ ズは、安定性と の主 の 突に介在し、成 の原 を供 する哲学です。」そしてイスラ ムは 容と共に、安定性の要求をも たすことの出来るイデオロギ を提示しているのです。

よく熟 してみれば、人生は恒久性と 容という要素の中にあることが分かります。それは、些 な物事においてでさえも 化を受け入れることの出来ないほど柔 性に乏しい硬直したものでなければ、またその 立った特性すらも、恒久的な独自の特 を有してはいないほどに柔 で流 的なものでもありません。このことは、人体の生理的 化の 程を 察してみれば明らかです。一生を通じて人体の全 は何度も 化しますが、それにも拘らずその人物は同一のままなのです。木の 、花、果 も 化しますが、その 性は不 のままです。

恒久性と 容が 和の取れた均衡をもって共存するのは、生命の法 なのです。

そしてこれらいずれの要素に しても人生のシステムを提供できるものだけが、人 的性の欲求と、人 社会のニ ズの全てを たすことが出来るのです。人生の基本的 はあらゆる代と 所において不 ですが、それらを解 する手段や方法と、生じている 象を取り う技 は、代の と共に 化します。イスラ ムはこの に新たな 点を当て、 的な方法でそれを解 しよう と みるのです。

クルア ンとスンナ（ 言者の言行 ）は、全宇宙の主によって授けられた永 の きを内包しています。この きは、 空の制 を超越した神を起源とするものであり、神によって 示された 人 社会的行 の原 は にしていると共に、永 なのです。しかし神は なる原 を明らかにしただけで、人 がそれをその 代の精神や状 に した方法でもって各 代において 用していく自由を与えました。各 代の人々が神的 きをその折々の に して 践し、 用していくことをみるのは、イジュティハ ド（真 に到 するための知的努力）を通してなのです。このように、イスラ ムの基本的指 は恒久的性 を有していますが、その 用法はその 代特有のニ ズに じて 化可能なのです。イスラ ムが明日の朝のように常に新 でモダンなのは、こう いう理由からなのです。

教 の完全な が保存されていること

最 に、そしてこれは非常に重要なのですが、 には、イスラ ムの教えは元来のまま保存されているという事 があります。 局のところ神の きは、いかなる の付加も必要とすることなく 能するのです。クルア ンは1400年前から存在する 典であると共に神の御言 でもあります。いまだに元来の形のまま利用可能です。 言者ムハンマドの一生と彼の教えの なるもまた、原初の 度のまま利用可能なのです。このユニ クな 史的 において、今までただ1つの 更も生じてはいません。 言者の言 と彼の全生涯の は、ハディ ス（ 言者の言行 ）と 言者 という形において、前例のない精度と信 性をもって私たちの手元にまで届いています。そして数多くの非ムスリムの批 家たちでさえ、この 得力のある事 を め ているのです。

イスラームにおけるこれらのいくつかのユニークな特長は、人の宗教と今日の宗教、そして明日の宗教としての信託を立しています。これらの面は過去と現在における数百万人もの人々に届け、イスラームが真の宗教であり、人のための正しい道であることを信させるのです。これらの面が、将来的にもより多くの人々にアピールし続けることには、疑いの余地もありません。真実な心と真実を切望する人は、いつもこう言いけるのです：

「私は、神以外のいかなるものも崇拝せず、神が唯一であり、他のいかなるものともその威を共有しないことを言します。また、ムハンマドが神のしもべであり、使徒であることを言します。」

ここで、以下に掲げるジョージバナドシヨが言った言をもつて、この事をめぐりたいと思います：

「私はムハンマドの宗教にし、その素晴らしいエネルギーにして常に高いを与えて来た。それはあらゆる代にアピールすることが出来る、存在の化する局面に可能な容力をえていると思われる、唯一の宗教である。私はこの素晴らしい人（ムハンマドのこと）について研究したが、私に言わせれば、彼はキリストなどとはかけ離れた、人の救世主とも呼ばれるべき素晴らしい人物なのだ。私は、もし彼のような男性が代世界のを担うならば、待望されている平和と幸福をもたらしつつ、を解することに成功するだろうと思っている。私はムハンマドの信仰が、今日のヨーロッパにとって容可能なものになり始めているように、明日のヨーロッパにとっても容可能なものであると予している。」

この事のウェブアドレス：

<https://www.islamreligion.com/jp/articles/646>

著作 2006-2015 断を禁じます。 2006-2023 IslamReligion.com. 断を禁じます。